

## 指定難病の炎症性腸疾患（IBD）専門外来 慢性的に続く腹痛、下痢や血便に注意

IBDは、消化管に慢性的に炎症を引き起こす原因不明の疾患であり、国の医療費助成制度の対象となる「指定難病」です。

近年、日本での潰瘍性大腸炎は20万人、クローン病は7万人を超えていると報告されています。当院でも開設以来、IBDと診断される患者さんは増え続けており、決して珍しい病気とは言えなくなってきました。IBDには、潰瘍性大腸炎とクローン病が含まれます。共に若



消化器内科部長・IBDセンター長  
竹内 健 医師

い世代に発症しますが、潰瘍性大腸炎では高齢発症の患者さんも最近増えてきています。いずれの疾患でも、慢性的に続く腹痛や下痢、血便、嘔気、嘔吐、あるいは発熱や体重減少などの症状がみられます。病変自体の直接的な原因が不明なため根本的に治癒させることは未だに困難ですが、様々な治療法が開発されていることにより、今では多くの患者さんを「寛解」状態、すなわち症状が落ち着き安定した状態にすることが十分可能になってきました。

IBDには、開発が著しい生物学的製剤、低分子化合物、メサラジン製剤、ステロイド剤、カルシニューリン拮抗剤、免疫調節薬といった薬物療法と血球成分

除去療法などの内科治療と手術による外科治療があり、患者さんの病態に合わせた治療方法が選択できるようになりました。

一度始めた治療は漫然と継続するのではなく、炎症の状態を血液や便中のバイオマーカーも用いて評価し適宜治療法を最適化することが寛解状態の維持と入院や手術回避に有効であることが報告されております。

当院IBDセンターでは、最新の技術を用いて最良かつ最適なIBD医療を提供しています。気になる症状がある方は、どうぞお気軽にご相談ください。

辻仲病院 柏の葉

☎04(7137)3737

柏市若柴178-12

柏の葉キャンパス148街区6